

インフォシス、AI の信頼性と透明性を高めるオープンソースの 責任ある AI ツールキットをリリース

このイニシアティブは、インクルーシブな AI エコシステムの構築に向けたインフォシスの取り組みを
さらに推進し、安全性、セキュリティ、プライバシー、公平性を確保

2025 年 2 月 26 日、インド・ベンガルール

次世代デジタルサービスとコンサルティングの世界的リーダーである[インフォシス](#)（NSE、BSE、NYSE : INFY）は本日、AI 導入に伴う倫理的な課題やリスクに対処しながら、企業が責任を持ってイノベーションを実現できるよう支援することを目的として、[インフォシス・トパース・レスポンシブル AI スイート](#)の主要コンポーネントである、オープンソースの「**レスポンシブル AI ツールキット**」の提供開始を発表しました。

インフォシスの Responsible AI Toolkit は、[インフォシス社の AI3S フレームワーク（スキャン、シールド、ステア）](#)を基に構築されており、企業に高度な防御技術のガードレールを提供します。これには、プライバシー侵害、セキュリティ攻撃、機密情報の漏洩、偏った出力、有害なコンテンツ、著作権侵害、幻覚、悪用、ディープフェイクなど、さまざまな問題を検知し、緩和するための専門的な AI モデルやシールドアルゴリズムが含まれています。また、パフォーマンスやユーザー体験を損なうことなく、AI が生成した出力の根拠となる洞察を提供することで、モデルの透明性を高めます。オープンソースのツールキットは、柔軟性と実装の容易性を提供します。完全にカスタマイズ可能で、多様なモデルやエージェント AI システムとの互換性があり、クラウドとオンプレミス環境をシームレスに統合します。企業は、[こちら](#)からツールキットにアクセスできます。

バラクリシュナ・D・R（バリ）氏、インフォシス、グローバルサービス担当エグゼクティブ・バイスプレジデント、AI および業界別ソリューション担当は、「AI が企業の成長を推進する中心的な存在となるにつれ、その倫理的な導入はもはや選択の余地のないものとなっています。インフォシスの『Responsible AI Toolkit』は、AI 革命を乗り越えながら、企業が強靱かつ信頼性の高い存在であり続けることを保証します。このツールキットをオープンソース化することで、AI の偏り、不透明性、セキュリティといった複雑な課題に対処する協調的なエコシステムを促進します。これは、AI をすべての人にとって安全で信頼でき、倫理的なものにするという当社の取り組みの証です」と述べています。

英国高等弁務官の科学・技術・イノベーション部門の責任者であるジョシア・バムフォード氏は、「インフォシスがAIを最優先する企業となること、そして責任あるAI オフィスを設立することへのコミットメントは、大胆なイノベーションと倫理的なリーダーシップを反映しています。オープンソース化により、インフォシスは、画期的な進歩のためにAIを活用する企業、スタートアップ、中小企業を支援します。同社の責任あるAI ツールキットは、技術的な卓越性のベンチマークであり、責任ある実践とグローバルな持続可能性へのコミットメントと組み合わせることで、世界中の企業にとってインスピレーションとなるモデルとなるでしょう」と述べています。

Meta 社の Sunil Abraham 氏、公共政策ディレクター・データ経済および新興技術担当は、「オープンイノベーションを通じて安全で責任あるAIの進歩に貢献する、オープンに利用可能な Responsible AI Toolkit の提供開始をインフォシスにお祝い申し上げます。オープンソースのコードとオープンデータセットは、安全性、多様性、経済的機会、およびすべての人への利益を優先する形で進歩を活用するために必要な情報とツールを、幅広いAIの革新者、開発者、および採用者に提供するために不可欠です」と述べました。

インド政府電子・情報技術省 (MeitY) 次官補 Abhishek Singh 氏は、「インフォシスが『Responsible AI Toolkit』をオープンソース化することを決定したことを知り、大変嬉しく思います。これにより、AI ベースのソリューションにおけるセキュリティ、プライバシー、安全性、説明可能性、公平性を向上させるツールが利用可能になるだけでなく、AI アルゴリズムやモデルにおける偏りの緩和にも役立つでしょう。これは、安全で信頼性が高く、責任あるAIソリューションを開発する上で非常に重要です。スタートアップ企業やAI 開発者は、この Responsible AI Toolkit から大きな恩恵を受けるでしょう」と述べています。

インフォシスは昨年、倫理的なAIへの取り組みを再確認し、[Responsible AI Office を立ち上げ、専用のサービス](#)を開発しました。同社は、[AI マネジメントシステムに関する ISO 42001:2023 認証を取得した最初の企業の 1 つ](#)であり、業界団体や政府主導のイニシアティブ（[NIST AI Safety Institute Consortium](#)、[WEF AIGA and C2PA](#)、[AI Alliance](#)、[UK FIDO](#)、[Stanford HAI](#) など）のメンバーとして、Responsible AI に関するグローバルな対話に参加しています。

インフォシスについて

インフォシスは、次世代のデジタルサービスとコンサルティングのグローバルリーダーです。30 万人以上の社員が人々の潜在能力を引き出し、人々、企業、コミュニティに新たな機会を創出するために働いています。56 カ国以上のクライアントをサポートし、40 年以上の経験を活かしてクラウドやAIを用いたデジタル変革を推進しています。当社は、AIを中核に据え、大規模なアジャイルデジタルを活用してビジネスを強化しています。イノベーションエコシステムからデジタルスキル、専門知識、アイデアを移転することで、常に接続された学習を推進し、継続的な改善を図ります。また、多様な人材が活躍できる包括的な職場環境を提供し、ガバナンスが行き届いた環境に優しい組織を目指しています。Infosys (NSE、BSE、NYSE : INFY) が貴社の次なる航海をどのように支援できるかについては <https://www.infosys.com/jp/japan/> をご覧ください。

セーフハーバー

本リリースにおける、当社の将来の成長見通し、または将来の財務・営業実績に関する特定の記述は、1995年私募証券訴訟公改革法の「セーフハーバー」規定の適用対象となることを意図した将来見通しに関する記述であり、このような将来見通しに関する記述と実際の結果または成果が大幅に異なる可能性がある、多数のリスクおよび不確実性を伴います。これらの記述に関連するリスクおよび不確実性には、当社の事業戦略の実行に関するリスクおよび不確実性、人材獲得競争の激化、人材の確保と維持、賃金の上昇、従業員の再教育への投資、ハイブリッド型勤務モデルの効果的な実施能力、経済の不確実性および地政学的な政治情勢、ジェネレーティブ AI などの技術的混乱や技術革新、移民規制の変更を含む複雑かつ進化する規制環境、当社の ESG ビジョン、資本配分方針、市場での地位、今後の事業、利益率、収益性、流動性、資本資源、買収を含む企業行動、サイバーセキュリティ問題などです。実際の業績や結果が将来の見通しに関する記述によって暗示された内容と異なる可能性がある重要な要因については、2024年3月31日に終了した会計年度に関するフォーム 20-F による年次報告書を含む、米国証券取引委員会への提出書類でより詳細に説明されています。これらの書類は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、証券取引委員会への提出書類や株主への報告書に含まれる将来の見通しに関する記述を含め、書面および口頭による将来の見通しに関する記述を随時行う場合があります。当社は、法律で義務付けられている場合を除き、当社または当社を代表して行われる将来の見通しに関する記述を随時更新する義務を負いません。

お問い合わせ先：

インフォシス 東京オフィス 安藤

Email : jo_ando@infosys.com